

楽しい読書が子どもたちの成長に良い影響を与えることは、さまざまな調査からもわかってきました。

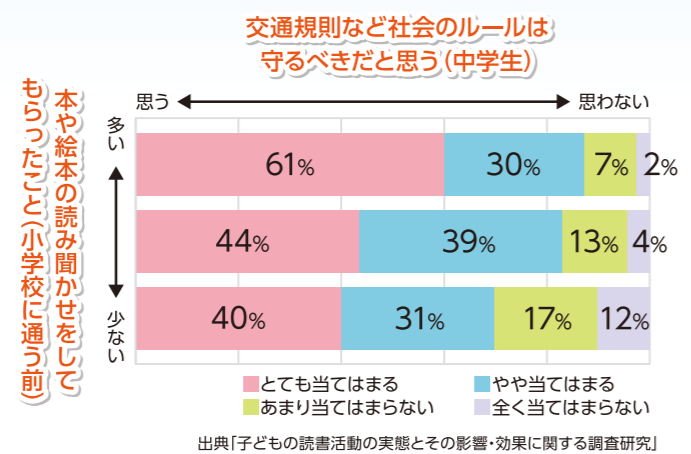
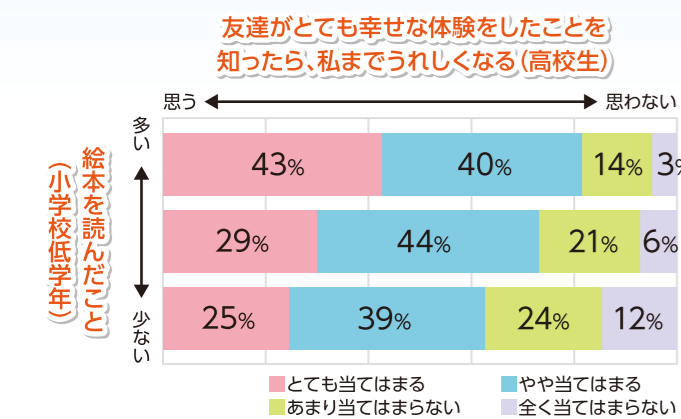
充実した読書活動を経験した子どもたちが大人になり、親となって、本県の読書文化がより豊かになっていくことを期待します。



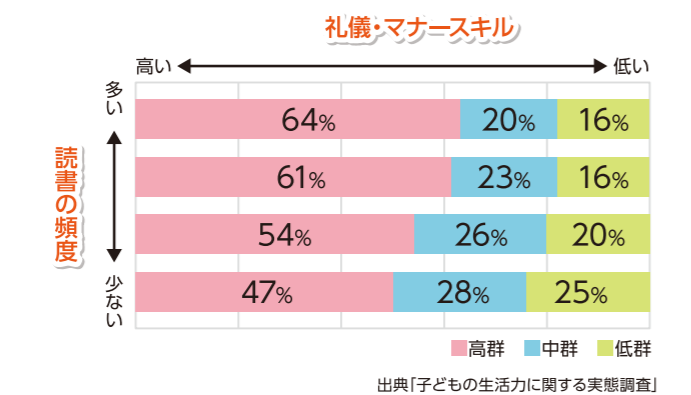
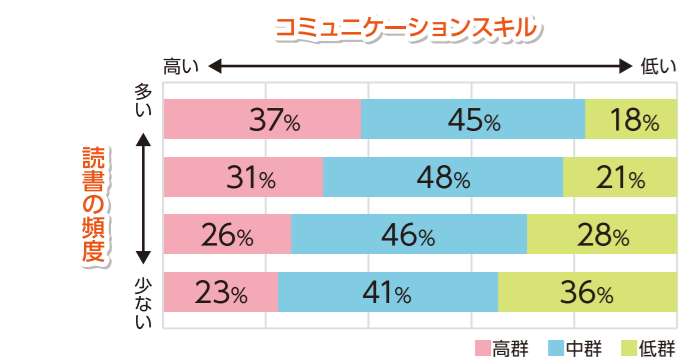
読書はコミュニケーション能力の基盤となります

子供の頃から、本に親しむことは豊かな人生を切り拓く上でとても大切です。特に絵本や読み聞かせなどは子供たちの情操を育み、考える力、コミュニケーション能力、社会性を養います。

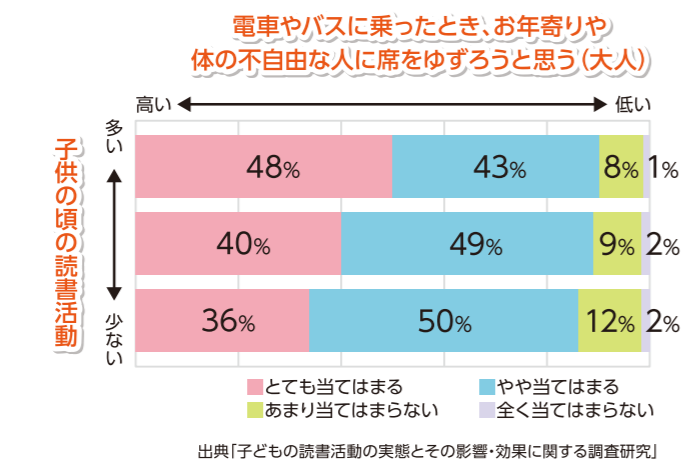
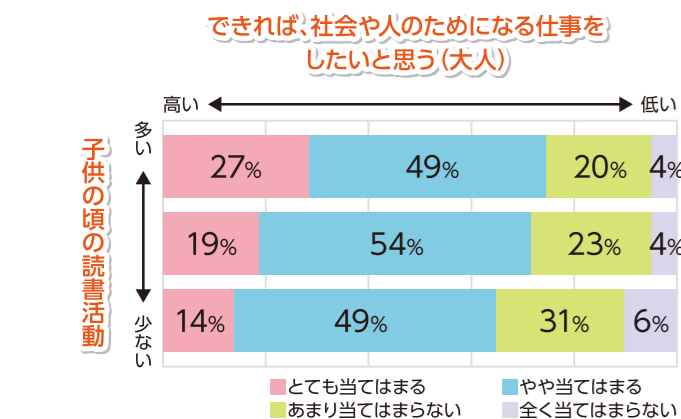
子供の頃（就学前から中学時代）に読書活動が多い中学生や高校生ほど、現在も人を思いやる気持ちや社会のルールを守る意識などの社会性が高い傾向にあります。



読書をする事が多い子供ほど、コミュニケーションスキルや、礼儀・マナースキルが高い傾向にあります。



また、子供と同様に、子供の頃の読書活動が多い大人ほど、未来志向や社会性などの意識・能力が高い傾向にあります。



お押し本活、はじめませんか？

【成人部門 最優秀賞】 木村 明子 さん(有田市)

アナウンサーの山根基世さんは、「自分の気持ちを相手にきちんと伝え、相手の気持ちを受け取っていいコミュニケーションができる、これが生きていくうえで必要な『ことばの力』であり、その多くは読書によって培われる」とおっしゃいます。また、「読書の楽しみもてるかもでないかで、人生の楽しみも大きく違う」ことを教えてくださっています。(令和3年度「読書推進フォーラム」に来県された山根基世さんの言葉から)

子どもたちと読書を近づけるために、私たち大人にできることは何でしょうか。

まずは大人自身も、読書を楽しむ毎日を工夫してみませんか。

社会教育委員会議からの提案 ~大人の読書10項目~

- 大人も絵本を楽しんでみませんか。
- すぐに手を伸ばせるところに本を置いてみませんか。
- 生活のすき間時間に本を楽しみませんか。
- 大人が本を読む姿を子どもたちに見せませんか。
- 親子で本とふれあう時間をつくりませんか。
- 家族で読んだ本について話す時間を楽しみませんか。
- 学校や地域の図書館、本屋さんなどに立ち寄ってみませんか。
- 読み聞かせや朗読をしてみませんか。
- 読書に関するイベントに参加してみませんか。
- 寝転んで読む、電子書籍で読む、読んだことを仲間と語り合うなど、いろいろな読書を楽しんでみませんか。



絵本のまち 有田川



まちかどライブラリー

和歌山県社会教育委員会では、県教育委員会の諮問を受け、令和2年9月から、県内での読書活動を推進し、読書文化をより一層醸成するための方策について、検討を進めてきました。

このリーフレットには、これまでの議論をふまえ、県民の皆さんへの提案をまとめました。子どもから大人まで年齢に関係なく、生涯にわたって読書の喜びや楽しさを味わうことができる、県民の読書文化の醸成につながることを期待します。

読書文化の醸成に向けて

~生涯にわたり読書に親しむために~



イラスト：のしざやか

和歌山県社会教育委員会議からの提案

読書は、わたしたちの人生に豊かな時間と心の栄養を与えてくれます。

生涯にわたり、子どもと、大人と、そして、本と、どんなつながりをつくっていけばいいのでしょうか。

このリーフレットでは、わたしたち大人がそのつながりを考えるため、子どもの成長に合わせた本との出会い方をまとめました。

和歌山県教育委員会
〒640-8585
和歌山市小松原通一丁目1番地
TEL: 073-441-3720

和歌山県社会教育委員会議
議長：藤田直子 副議長：熊代卓夫
委員：岡田秀洋 尾上恵治 笠野衣美 川久保尚志 佐藤昌吾
杉本和子 辻 敏弘 道本美月 西川一弘 のしざやか



和歌山県教育委員会
和歌山県社会教育委員会議



(引用：国立青少年教育振興機構パンフレット「読書・手伝い・外遊び」)

絵本大好き!お膝で隣でお布団で♡

【乳幼児期部門 最優秀賞】 林 まゆみ さん (紀の川市)

※掲載しているキャッチフレーズは、「家族みんなで読書に親しむことを呼びかける「キャッチフレーズ」」で入賞した作品です。

ぼくのむね ページとはずむ家読時間

【学童期部門 最優秀賞】 一ノ瀬 拓大 さん (広川町)

画面に触れるその指を、ページをめくるこの指に。

【青年期部門 最優秀賞】 真珠 杏莉 さん (和歌山市)



【本との出会い ~本で遊ぶ~】

絵本を介した身近な大人とのふれあいの時期 **乳児期**



【人との出会い ~本を楽しむ~】

大人の読み聞かせを集団で楽しむ時期 **幼児~小学校低学年**



【自分との出会い ~本と語る~】

自らの意思で本や物語に関わる時期 **小学校高学年~高校生**



家庭

赤ちゃんに絵本との出会いをつくりましょう



母が声を出して読んでやるということは、きわめて大切なことである。なぜなら、声の中には必ず心があり、心を込めて読んでやれば優しい母の声が、子どもの中に入り込んでいくのである。

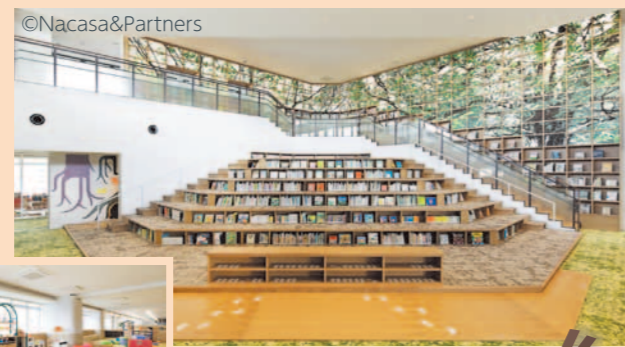
よく はとじゅう (椋 鳩十『お母さんの声は金の鈴』から)



親子が本と出会えるお手伝いをしましょう



ブックスタート事業



©Nacasa&Partners



©Nacasa&Partners

こどもとしよかん (和歌山市民図書館)

赤ちゃんの好きな絵本は、「食べ物」「乗り物」「動物」。大好きな絵本は、飽きずに何度も聞きたがり、触りたがるものです。絵本の世界へ一緒に出かけ、楽しく遊びましょう。おじいちゃんやおばあちゃんと絵本で遊ぶことも、大切なふれあいです。

「絵本には、人生に三度、読むといい時期がある。一度目が幼いとき、二度目が子育てのときだ。三度目に読むといいのは、子どもが独立したり、自らが年老いて、孤独や病にさいなまれたときだ。」 (柳田邦男氏の言葉から)



うちどく 家読、親子での読書を楽しみましょう



学校のあちこちに置かれた本



学校

保育所・幼稚園・学校等と地域とが本でつながりましょう



読み聞かせボランティアの活動



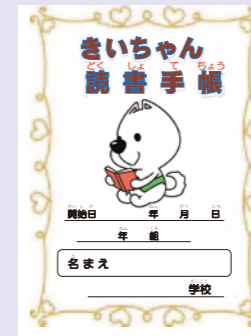
地域の方による学校図書館の整備



読書をとおして、仲間と交流しましょう



学校のみならず育てた読書の木



和歌山の子どものための読書手帳



学校図書館の環境づくりは児童生徒の意見を取り入れて



高校生よみかたりボランティアが小学生と交流



本のある場所へ、家族や友人と、さあ、出かけましょう



地域の図書館が発行する読書記録帳 (湯浅町立図書館)



景色のいい読書スペース (新宮市立図書館)

大人が読書の喜びを味わい、「本を読むって楽しい」と感じる姿を、子どもたちに見せたいものです。その姿を見た子どもたちは、きっと自分も読みたい本に手を伸ばすことができるでしょう。通学通勤の電車内、家事や勉強の合間など、すき間時間の読書も楽しんでみましょう。



県内公立図書館一覧

地域



絵本のライブラリー (海南 nobinos)